

高松市よりのお知らせ

就学前児童の集団内での感染の傾向です。感染防止策の参考としてください。

① ウイルス排出量がピークである発症前や、感染した場合の症状の出るまでの時期(潜伏期間)を意識しましょう。

・急に発熱し、お迎えをお願いして、受診したら陽性、ということが多いです。香川県の手引きにも示されているように、発症前にウイルス排出量が多く、気付いた時には、感染が拡大していた、という事例が見られます。元気で登園している園児も、無症状の陽性者かも、と意識して、常に基本的な感染対策をお願いします。

・潜伏期間が個々で違い、接触があり感染したと思われる、3日後、4日後に症状が現れることが多く、5日目になって発熱する事例も多々あります。陽性者が発生した場合、発症前の接触を見て、接触から後の3～5日間は、特に体調に留意が必要です。

② 発熱症状が見られた園児については、解熱後、無症状であっても、健康観察の期間を置いてからの登園の御協力をお願いしたいところです。

・発熱症状で病院を受診し、「風邪。しばらく様子を見て熱が下がらないようだったら検査をしましょう」と診断された園児が、すぐに登園し、数日後に感染が広がったケースがよく見られます。

高熱が出ても数時間～1・2日程度で平熱になるケースが多く、同時多発で感染が見られた事例の場合、その数日前の状況として、一人が発熱後すぐに登園していることが複数ありました。

③ 降園後の過ごし方(友達との遊び)についても注意喚起を促しましょう。

・降園後や休日、家族ぐるみの交流の場で、感染が広がったと思われるケースもあります。年度替わりでそのような機会も増えることが予想されます。

家庭においては、マスクを着用しない習慣の方も多いようですし、マスクをしていても会食や会話が盛り上がり、つい至近距離で長時間の接触となりがちです。家庭内でも感染対策を促すようお願いいたします。